

##見出し

BWC第117回定例会を開催

臭いに関する基準作成に一步前進

野村会長始め執行部が留任

##本文

ベストウールクラブ（略称＝BWC・野村利泰会長）は、2月7日、東京・中央区八重洲の日本ふとん製造協同組合（略称＝JFMA）会議室で、「第117回定例会」を開催しました。

冒頭、野村会長が、「政府の金融（経済）対策で、先行きに明るい兆し（株価高騰、円安）が出ているが、原材料を輸入に頼る業界にとっては、引き続き厳しい1年になるでしょう。BWCでは、団体（組織）のパワーを生かして、苦境からの脱却を図っていきます」という旨のあいさつをしました

引き続き、議案審議に入り、後藤稔書記が、「第116回定例会」のレビュー（議事報告）を行った後、任期満了に伴う執行部人事について、野村会長を始め、西岡一則幹事、後藤利広会計監事、後藤書記の留任が満場一致で承認されました。

この後、野村会長から、在任中（2年間）の活動方針（案）として、①AWIとの関係強化（羊毛の臭いの統一基準作成等）②新製品の開発（ウォッシュャブル羊毛ふとん等）③BWCホームページを通じての販売へ向けて、さらにリニューアルを行う④会員増強⑤ふとん製造業の継続へ向けて・設備、機械メーカーとの取組・官学との連携⑥海外研修―販売先の開拓に向けてなどが打ち出されました。

次に羊毛の不快感臭いに関する基準作成について、Qテックの遠藤氏、吉崎氏にもご参加頂き、各種の羊毛の試験結果をもとに議論を行いました。試験結果からのみでは臭いのもととなる数値の確定は難しく、今回の議論では基準を作成するには至りませんでした。

また、ウォッシュャブル羊毛ふとんの開発については、賛助会員の各原料商より、ウォッシュャブル羊毛に関する提案を行いました。

定例会は、後藤会計監事の閉会の辞で滞りなく終了しました。